

## 特集 変わりゆくキューバ

工藤昌宏

国土面積 11 万 km<sup>2</sup> (日本の本州の約半分)、人口約 1200 万人 (東京都の人口とほぼ同じ)、スペイン語を公用語とし、亜熱帯で年を通じて温暖で観光資源に恵まれ、カリブ海に位置する美しい島、これがキューバである。しかしその歴史は複雑である。

キューバは、15 世紀末のコロンブスの上陸以降、長らくスペインに支配され、その後、米国に支配され続けてきた。キューバ国民が 400 年以上におよぶ抑圧からようやく解放されたのは、1959 年のキューバ革命によるものである。革命を主導したのは、フィデル・カストロ、エルネスト・ゲバラ、そして現在のキューバの政治的指導者ラウル・カストロ等であった。革命と同時に、フィデルは直ちに識字運動を全国的に展開するとともに、食糧や医薬品の安定的供給、さらには医療費や教育費の無償化など国民生活の安定に欠かせないインフラの整備に着手した。社会主義キューバの誕生である。これがキューバのもう一つの顔である。

だが、米国は鼻先に誕生した社会主義キューバを激しく弾圧することになる。1961 年以降、米国は一方的に国交を断絶しただけでなく、キューバへの物資や資金の流入を遮断する経済封鎖を行ってきた。また、600 回以上におよぶカストロ暗殺計画まで企てキューバ革命を崩壊させようとしてきた。だが、これらの企てはことごとく失敗し、2014 年 12 月、米国バラク・オバマ大統領は対キューバ断交・経済封鎖は冷戦時代の遺物と切り捨て、ラウル・カストロ国家評議会議長との会談を

経て 2015 年 7 月、ついに米国とキューバは国交を回復した。両国の国交回復は、両国にとってばかりでなく、カリブ海諸国や世界の平和と安定にとって大きな礎となる。とはいえ経済封鎖は依然として続いており、しかも今年 6 月、ドナルド・トランプ米国大統領はようやく前進し始めた両国の関係を元に引き戻そうとする政策に踏み切った。

しかし、キューバ革命はこのような逆風に押し戻されることはない。2016 年 11 月にフィデルを失った悲しみを乗り越えて、キューバ国民はこれからも前進していく。キューバは、米国の強烈的な経済封鎖の影響で確かに物資は不足している。だが、国民の不幸感や微塵も感じられない。それどころか、人々は底抜けに明るい。そこには、資本主義にあるものはないかもしれないが、資本主義にないものがある。企業利益や兵隊の数を増やすのではなく、医師や教師を増やそうとする国、それがキューバである。そしてここに、持続可能な未来の社会システムの姿が見える気がする。

今回の特集では、平和主義、国際主義を掲げるキューバ革命を具体的に示す医療、教育への取り組みを皮切りに、アフリカなどの音楽の影響を受けたキューバ独特の音楽、さらには変わりゆく社会体制の様相について各専門家に健筆をふるっていただいた。いずれも、キューバとキューバ革命を知っていただくうえで有意義なものであると確信する。

(くどう・まさひろ：東京工科大学名誉教授、  
経済学)